

Nirvana of the Buddha

とこなめ陶の森資料館 企画展

国指定重要文化財

# 「仏涅槃図」展

ぶつ  
ね  
はん  
ず



2022.

11.3 | 木 |

12.11 | 日 |

とこなめ  
陶の森  
資料館

9:00~17:00

休館日：月曜日  
(祝日の場合は翌日)

入場無料



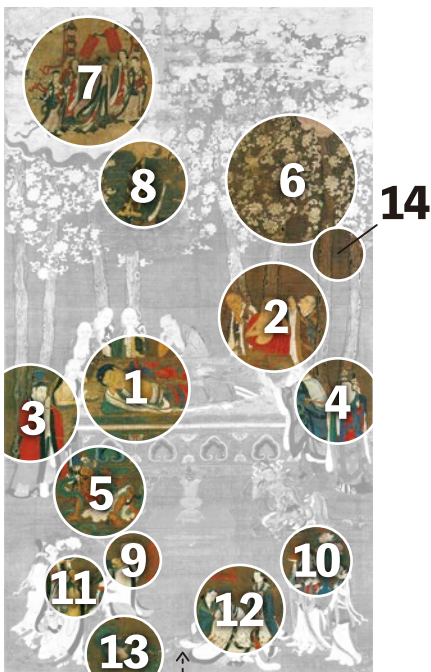
常滑市中之坊寺に残されている国指定重要文化財「仏涅槃図」は、2月15日、拘尸那竭羅城郊外の沙羅双樹の下で、釈迦が80歳の生涯を終えて入涅槃するようすが描かれています。涅槃とは、煩惱の火が吹き消された状態、すべての束縛から解脱すること、不生不滅の境地に入ったこと、という意味から「釈迦の死」を指す言葉となりました。また、サンスクリット語で「ニルヴァーナ」といい、「吹き消す」ことを意味しています。

宝床台には右手枕で目を閉じ、西向きに横たわる釈迦 [1] がひととき大きく描かれています。その周りで、九人の仏弟子たちが悲嘆にくれています [2]。向かって左には通天冠をつけて合掌する梵天 [3]、向って右には柄香炉をもつ帝釈天 [4] が、それぞれ静かに佇んで供養しています。その足元では、屈強な金剛力士と密迹力士が大地に腰を落として [5] 悲嘆のさまを露わにしています。八本の沙羅双樹は、悲しみのあまりに白色に変じて鶴林と化し [6]、上空には、母である摩耶夫人の一行 [7] が、阿那律に先導されて [8] 忉利天から降臨する様子が描かれています。





宝床台の前方には供養台が置かれ、台上には香炉こうろを乗せて香木こうぼくが立てられています。その周りには、大鉢おおぼちをかかげる純陀じゅんだ [9]をはじめ、在俗信者ざいぞくしんじゃが花 [10] や珊瑚さんご [11] で釈迦を供養している様子も描かれています。釈迦の父であった阿闍世王あじゃせおうと思われる王冠おうかんをつけた人物 [12] が、百獣の王ひやくじゅうである獅子 [13] とともに大地に腰を落として嘆き悲しんでいます。



15  
 天竺大乗二百餘卷  
 其間經論甚多  
 撰述者皆川氏  
 十五卷之經  
 天竺為二五安樂  
 長壽寺及摩訶門  
 再之經法會共  
 月餘法會共  
 百餘卷之經  
 如左記之經  
 天竺大乗二百餘卷  
 其間經論甚多  
 撰述者皆川氏  
 十五卷之經  
 天竺為二五安樂  
 長壽寺及摩訶門  
 再之經法會共  
 月餘法會共  
 百餘卷之經  
 如左記之經



向かって、右から二本の沙羅双樹の間には、「明州江下周四郎筆」の墨書落款 [14] が認められます。これは浙江省の港湾都市としてしられる寧波が「明州」と呼ばれていた時代に制作されたことを意味しています。寧波は、紹熙五年（1194）に「明州府」から「慶元府」へ名称が変わりました。したがって、周四郎の活躍した頃、およびこの作品が制作されたのは、改称以前の12世紀末頃と考えられます。

寧波仏画は、天台宗浄土教の拠点として隆盛した延慶寺との活動が知られています。延慶寺はかつて浙江省寧波にあった寺院で、広順三年（953）に報恩院として建立されたのが始まりとされ、紹興十四年（1144）に延慶寺と改称しました。

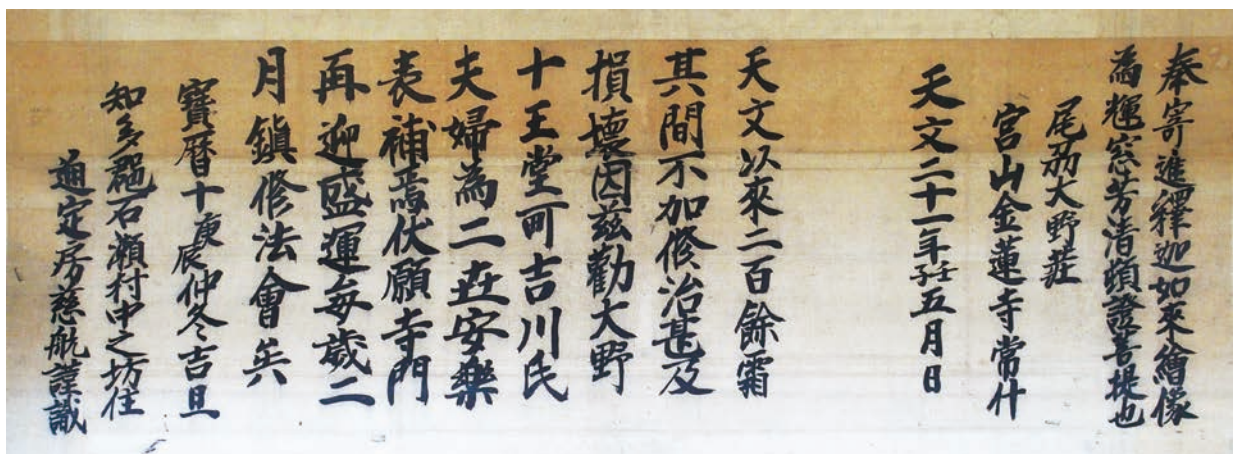
本図に十名の仏弟子が描かれているのは、『法華経』に説かれる十大弟子を重視したものと考えられます。また、前方に描かれた純陀や阿闍世王のモチーフは、いずれも天台宗で「法華経」の仏教倫理を補助する『大般涅槃経』の説話を典拠にしています。宋時代の涅槃儀礼は、純陀の最期の供養に注目し、人々の供養を導く契機としていました。阿闍世王は、天台浄土教で重視された『観無量寿経』のなかで、父王の頻婆娑羅王を殺した悪人として登場します。さらに『大般涅槃経』では、自らの罪を懺悔して釈迦に帰依しました。いわゆる「一闍堤の成仏」という大乘仏教の救済思想をもっとも体現する人物でもあります。こうした登場人物の選択は、本図を観る信者に対して釈迦への供養を推奨するとともに、大乘仏教の教理をわかりやすく伝達するツールとなっていることを示しています。

寧波の地域社会の仏教信仰は、鶴林と化した沙羅双樹に宝相華や唐草のモチーフからも読み取ることができます。浄土を象徴する宝相華文様や唐草文様の表現は、当時の地域社会において、涅槃の場面に再生の論理が盛り込まれており、死後の極楽浄土へ往生する思想が盛んに推奨されていた表れと考えられます。

本図の裏書 [15] によると、天文二十一年（1552）五月に宮山にあった金蓮寺の什物となっており、およそ200年後の宝暦十年（1760）に補修した記録が書かれています。

また、平成六～九年（1994～1997）にかけて、常滑市教育委員会による修繕がおこなわれ、現在に至っています。

（とこなめ陶の森 小栗康寛）



[15] 仏涅槃図の裏書